



# 創薬人育成サマースクール2026

令和8年7月25日(土)

東北大学青葉山キャンパス:薬学研究科大講義室  
参加費 無料

製薬現場の第一線研究リーダーが語る創薬研究  
対象:創薬研究者を目指す大学院生相当

13:00-14:20 木下 晶博氏 (小野薬品工業株式会社)  
「EP3/EP2受容体デュアル作動薬の創製」

低活動膀胱(UAB)治療薬として、膀胱を収縮しつつ全身循環への副作用を抑制するため、EP2(弛緩)とEP3(収縮)を同時に作動させる経口薬候補、ONO-8055を創製した。ONO-8055は、ヒト受容体で高い作動活性と良好なバランスを示し、ラット有効投与量、循環器系安全域の点で優れた結果を示しただけでなく、欧州第I相試験での忍容性も良好であった。メディシナルケミストとしての化合物創製時のポイントとして、構造最適化による動態・物性改善や合成面の改良なども含めて紹介する。

Ref. MEDCHEM NEWS (2019年、Vol.29 No.3), *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 26, 1016-1019 (2016).



14:40-16:00 平野 沙悠梨氏 (住友ファーマ株式会社)  
「製薬企業におけるプロセス研究」

プロセス化学は、医薬品の有効成分である原薬をいかに製造するかを探究する学問であり、メディシナルケミストリーで生まれたくすりの種を、安定的かつ安全・低コストに製品へと仕上げる“ものづくり”の核心を担います。本講演では、プロセス化学の基礎的な概要から実際の研究事例までを紹介し、その魅力と重要性に触れていただくことを目的とします。

企業人が多くのメッセージを直接学生に  
伝えることで創薬研究の重要性とその  
魅力を知ってもらいたい。

<http://medchem.pod.ne.jp>

問い合わせ先

〒980-8578

仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学薬学研究科

浅井 禎吾

TEL 022-795-6822

[teigo.asai.c8@tohoku.ac.jp](mailto:teigo.asai.c8@tohoku.ac.jp)